

2015年度JCAS次世代ワークショップ企画
企画責任者：浅田 晴久（奈良女子大学文学部）

災害をいかに地域に伝えるか

—南アジアにおける気象学と地域研究との協働—

□背景

南アジア諸国ではモンスーンの年々変動や季節変動にともなう大雨・洪水や旱魃など、気象災害が地域社会に及ぼす影響が大きい。気象学の分野では当該地域の災害発生メカニズムに関して、現在までに一定の知見の蓄積がみられるが、その知見が地域社会に伝えられて有効な施策に活かされているとは必ずしも言いがたい。外部の研究者と地域住民をつなぐのは地域研究の専門家が得意とするところであるが、従来の地域研究は特定地域の固有性の解明に重きを置くあまり、その知見を他分野に利用可能な形で伝えることに注力してこなかったという反省点が指摘されている。

□目的

本企画では、南アジアをフィールドとする気象学・気候学・水文学と、地域研究とを専門にする若手研究者同士で、「伝える」をキーワードに学際的な議論を深める。「伝える」には、1) 専門分野の最新の知見を他分野の研究者へ伝える、2) 外部の研究者が有する専門知識を地域住民に伝える、3) 隣接する地域の現状を相互に伝え合う、の3つの意味が込められている。

□参加者

浅田晴久（奈良女子大学・インド地域研究）
赤松芳郎（京都大学・ブータン地域研究）
南出和世（桃山学院大学・文化人類学）
山根悠介（常葉大学・気象学）
福島あずさ（神戸学院大学・気象学）
村田文絵（高知大学・気象学）
田上雅浩（東京大学・水文学）
木口雅司（東京大学・気候学）
ニッタナンダ・デカ（ゴウハティ大学・地理学）
ムハンマド・ラシェドウル・ラーマン
（バングラデシュ農科大学・農村開発）
アドバイザー：安藤和雄（京都大学・農村開発）

□開催日時・場所

2016年2月6日（土）13時～18時半
京都大学東南アジア研究所

後援

科研費（若手研究B）「インド・アッサム州の農業低開発への再評価—「アッサム型」持続的農業の可能性」
（研究代表者：浅田晴久） など